牧野　浩志

「最先端ITS技術を世界の交通・都市・環境問題解決のためにどのように使えるのか?」ITSの国際展開について議論する

ITSの国際展開に関する特別研究会　RC-72

1. 代表幹事

牧野浩志（東京大学 生産技術研究所 准教授）
伊丹　誠（東京理科大学 基礎工学部 教授）
上條俊介（東京大学 生産技術研究所 准教授）
植原啓介（慶應義塾大学 環境情報学部 准教授）
中野公彦（東京大学 生産技術研究所 准教授）
田中伸治（東京大学 生産技術研究所 講師）
平沢隆之（東京大学 生産技術研究所 助教）

幹事

須田義大（東京大学 生産技術研究所 教授）
池内克史（東京大学 大学院情報学環 教授）
桑原雅夫（東北大学 情報科学研究科
東京大学 生産技術研究所 兼任教授）
田中敏久（東京大学 生産技術研究所 客員教授）
鈴木高宏（東京大学 生産技術研究所 客員准教授）

連絡先

師尾佐由利（先進モビリティ研究センター）
Tel　：03-5452-6565
Fax　：03-5452-6800
e-mail：its-sec@its.iis.u-tokyo.ac.jp
HP　：http://www.its.iis.u-tokyo.ac.jp/

2. 主旨

ITS（Intelligent Transport Systems）とは、最先端の情報通信技術等を用いて人と道路とクルマとを一体のシステムとして構築することで、これまで解決が困難であった様々な社会的課題を解決し、社会や生活の変革に貢献していくものです。

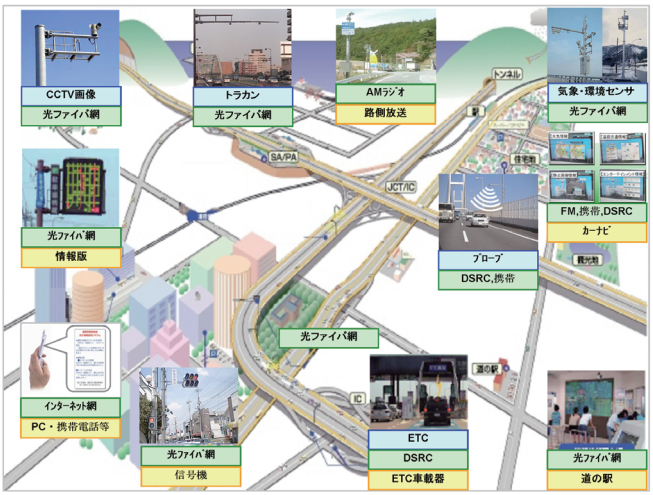
日本のITSは、カーナビゲーションシステムやVICS、ETCの普及が進み、料金所渋滞の解消や環境負荷の軽減などの社会的効果が現れてきており、世界で最先端を走っているといわれています。カーナビやETCの販売台数は年間400万台を超え、新しいモバイル版三種の神器と呼ばれるほどの大きなマーケットを形成し、大きな経済効果をもたらしました。また、公共交通機関に関しても、バスロケーションシステムが進化し、バスの到着時間予測やデマンドバスなどバス利用者の不満解決への取り組みが始まっています。

一方、世界に眼を向けると、開発中の国々では日本の高度成長期と同じような渋滞、事故、環境問題といった交通に起因する課題に苦しんでおり、高速道路建設だけでなく課題解決のためのITSの導入に対して関心が高くなっています。東南アジア諸国、中国、インド、アフリカ諸国などの都市・交通問題を理解し、適切なITS技術を移転することは、各国の経済発展を支援することのみならず、地球規模での環境問題の解決にもつながるものです。

本研究会では、国際協力、ITS、道路建設、コンサルタントなどに携わる方々による議論により、日本のITSの現状や将来動向も踏まえ、諸外国の都市・交通問題を解決するためのITSの活用方法について検討を行い、実践をしていくこととしています。多くの方々のご参加をお待ちしています。

3. その他

期　　間：平成23年4月～平成24年3月
参　加　費：賛助員の場合（賛助会費一口10万円）
：参加費10万円
非賛助員の場合　：参加費20万円
定　　員：特になし
運 営 方 法：年6回、1回2時間程度の研究会を開催



最先端の日本のITSの全体構成図

収集基盤	各種路上センサ（気象・災害・交通量）、カメラ
通信基盤	光ファイバネットワーク、DSRC、携帯電話等移動体通信網
地図基盤	デジタル道路地図
データ基盤	データ定義およびデータ蓄積装置
車載器	マルチアプリ対応車載機
提供基盤	各種路上提供装置（情報板・路側放送）、VICS、インターネット